



2025年12月5日

各 位

会 社 名 株式会社 ミダックホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 加藤 恵子
(コード番号: 6564 東証プライム・名証プレミア)
問 合 せ 先 取締役経営企画部長 高田 廣明
電 話 番 号 053-488-7173

(訂正)「2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）」の 一部訂正について

2025年11月14日に公表いたしました「2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）」について、一部訂正が生じましたのでお知らせいたします。

記

1. 訂正の理由

「2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）」の公表後に、事務的ミスにより記載内容の一部に誤りがあることが判明しましたので、これを訂正いたします。

2. 訂正の内容

訂正箇所に下線を付して表示しております。

「1. 当中間決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」

【訂正前】

① 廃棄物処分事業

最終処分場においては、旺盛な埋立需要を背景に最終処分場における廃棄物受託量が増加しました。また、焼却施設を中心とした中間処理施設においても、既存取引先からの受託量は安定的に推移しました。以上の結果、売上高は4,354百万円（同9.5%増）となり、セグメント利益は2,357百万円（同13.5%増）となりました。

② 収集運搬事業

産業廃棄物においては、大口案件の減少等により受託量は前期に比べ減少しましたが、取引先に対する価格転嫁を進めたことで、前期並みの売上を確保しました。一般廃棄物においては、株式会社フレンドサニタリーについては前期に比べスポット案件が減少しました。株式会社ミダックライナーにおいては飲食店を中心とした新規開拓に注力した結果、受託量は前期よりも増加しました。以上の結果、売上高は939百万円（同3.6%減）となり、セグメント利益は209百万円（同26.4%減）となりました。

③ 仲介管理事業

大口案件の獲得により、協力会社への仲介は好調に推移しました。以上の結果、売上高は89百万円（同15.6%増）となり、セグメント利益は53百万円（同26.2%増）となりました。

【訂正後】

① 廃棄物処分事業

最終処分場においては、旺盛な埋立需要を背景に最終処分場における廃棄物受託量が増加しました。また、焼却施設を中心とした中間処理施設においても、既存取引先からの受託量は安定的に推移しました。以上の結果、売上高は4,358百万円（同9.5%増）となり、セグメント利益は2,357百万円（同13.5%増）となりました。

② 収集運搬事業

産業廃棄物においては、大口案件の減少等により受託量は前期に比べ減少しましたが、取引先に対する価格転嫁を進めたことで、前期並みの売上を確保しました。一般廃棄物においては、株式会社フレンドサニタリーについては前期に比べスポット案件が減少しました。株式会社ミダックライナーにおいては飲食店を中心とした新規開拓に注力した結果、受託量は前期よりも増加しました。以上の結果、売上高は935百万円（同3.5%減）となり、セグメント利益は209百万円（同26.2%減）となりました。

③ 仲介管理事業

大口案件の獲得により、協力会社への仲介は好調に推移しました。以上の結果、売上高は74百万円（同21.0%増）となり、セグメント利益は53百万円（同25.4%増）となりました。

以上